

## 平成27年 第2回 大和郡山市総合教育会議

### ① 開催日時

平成27年12月16日（水） 午後2時45分～午後3時30分

### ② 開催場所

大和郡山市役所 4階 404会議室（教育委員会室）

### ③ 出席者

上田清市長、藤本眞喜子教育委員長、三橋仁美教育委員長職務代行者、  
福本宜男教育委員、石川泰弘教育委員、赤井繁夫教育長

以上6名

事務局12名

### ④ 傍聴人数

0名

### ⑤ 次第

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 大和郡山市教育大綱(案)について
4. その他
5. 閉会

### ⑥ 議事

○事務局 皆様おそろいですので、これより平成27年第2回大和郡山市総合教育会議を開催いたします。

私、総務部企画政策課の八木でございます。本日の会議の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最初に上田市長から開会の挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○上田市長 皆さん、こんにちは。

今年も残り2週間と本当に慌ただしくなってきた中、お集まりをいただきまして、ありがとうございます。

今日の議題は教育大綱で、後ほど説明させていただきますが、私としてはシンプル・イズ・ベストと思っております。当初の原案は、八ページほどあったと思いますが、シンプルにさせていただきました。想像力を膨らませながら、これについて御議論いただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○事務局 引き続きまして、次第3 大和郡山市教育大綱(案)に入らせていただきます。

第1回会議での各委員の皆様様の御意見を踏まえ、大和郡山市教育大綱(案)を作成いたしましたので、皆様のお手元にお配りいたしております。

また、参考資料といたしまして、大和郡山市第4次総合計画基本計画骨子案の中から、教育関連の部分を抜粋したものをお配りさせていただいております。

教育大綱は、本市の教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針でございます。

一方、総合計画は本市のこれからあるべき姿、将来像を描いたもので、総合的、計画的にまちづくりを進めていく上での基本的な方針であります。教育大綱と総合計画は、それぞれ密接に関連するものでございます。

そこで本市におきましては、教育大綱では本市の教育の大きなテーマ、根本となる方針について定めております。そして、教育に関連する具体的な施策や取り組みにつきましては、第4次総合計画が平成28年度を開始年度として策定されることも踏まえ、総合計画の中で示してまいりたいと考えております。

それでは、大和郡山市教育大綱(案)につきまして、上田市長から御説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

○上田市長 さきほど申し上げたように、多くの文章を並べるよりも、この間お出しいただいた意見などから膨らみのある言葉やメッセージを使っていきたいと思っております。

キーワードが幾つかあると思います。やはり「ふるさと」という言葉は大切にしたいし、「ふるさと」に対する夢、誇り、自信を持つことも大切です。特に子供たち、大人もそうですが、自分の住んでいる、あるいは生まれたところに夢と誇りと自信を持つことは、今、地方創生と言われている時代に非常に大事なことではないかなと思います。

その上で、未来を拓き、未来に駆けるということですが、では、どのような未来を拓いていくのか。例えば経済的に豊かになりさえすればいいのかということが、今の時代は問われているのではないかという思いもあります。

そういう意味で、未来を拓き、未来に駆けていくときに、豊かな心を持ちながら拓き、駆けて行ってほしい、それが人づくりではないかという思いを私は持っています。それに対して3つの柱があります。

1つ目は、「子どもの生きる力をみんなで育くむまちづくり」です。では、生きる力とは何か。これをみなさんで話し合えればよいと思っています。

このような話があります。子供が転んだときに、普通は1人で起きなさいと言いますが、母親が子供の声をまねて「痛い。」と言ったら子供がすぐに立ち上がった。これは何の例え話かと言いますと、痛みを共有することによって、生きる力を育むということです。色々な角度から議論ができると思いますが、みんなで育む。言ってみれば、教育は教える「育」ではなくて、ともに育つ「育」、そちらのほうがいいかもしれないと考えています。

2つ目は、「生涯を通じて学ぶよろこびをだれもが実感できるまちづくり」です。豊かさとは一体何かという問いかけにつながっていくと思いますが、生涯学んで何を得るか、何が喜びなのかということです。

3つ目は、「子ども一人ひとりの学びをきめ細かく応援するまちづくり」です。学びの中に学習も含まれるわけですが、あくまで学習は学びの一部と捉えています。学びという言葉が大きく捉えて、みんなで応援していこうと、そういう思いでございます。

また、いろいろと御意見をいただけたらと思っておりますので、よろしく願います。

そちらに置いているのは、教育大綱のテーマを、天守台を支える裏込め石に筆で書いたものであります。

○事務局 それでは、ただいま市長より説明のありました教育大綱(案)につきまして、委員の皆様から御意見等ございましたら、よろしく願います。

○赤井教育長 1つよろしいですか。

ふるさと「大和郡山」でなく、ふるさと「郡山」としたところに、きっと市長の思いがあるのではないかと思います。聞かせていただけますか。

○上田市長 文章的に長いということもありますが、郡山の本家はここだという思いもあ

ります。

市民の方も会話の中で郡山の前に「大和」をつけないですし、2文字のほうがうまくおさまると考えました。

○藤本教育委員長 大綱の3つの柱ですが、直感的に私たちの思いも含めて、言い当てていただいていると思いました。

1つ目の柱で、子供の生きる力をみんなで育むとありますが、みんなで育むことが、今の時代非常に大切なことであり、もっと実感して、実践していく必要があると思います。私としては、大変いい大綱ができていないのではないかと思います。

この大綱に基づいて、総合計画基本計画骨子案の中に細かくどうしていくのかという内容が、出てくるわけですか。

○事務局 こちらは施策の方向性を示すものとなっております。理念と基本方針に基づく施策の方向性を示して、個別の施策は毎年度、市の状況に合うように検討し、予算化していくことになります。

この総合計画は平成28年度から10年間の計画になっておりまして、教育大綱が大きな理念となっており、この基本計画が個別施策の方向性を示すものとなっております。

○福本委員 すばらしい言葉を考えていただきました。地域社会に根づく心豊かな人づくり。人づくりは国づくりにもつながる問題であるという重要性を理解できるような言葉だと思います。

先ほど市長の説明の中に、豊かな心を持って、未来を拓き、未来に駆ける、それが人づくりへフィードバックするというのがありましたが、それをしっかりと大綱の中で我々が理解し、その方向性でこの3つの柱へ反映できたらいいなと思います。確かに豊かな心は、イメージするのが簡単なようで難しい。この3つの柱がびたっとイメージできるような何かがあればいいと思っていたのですが、そういう意味で、豊かな心を持って、未来を拓き、未来に駆けるというのは、すばらしい言葉だと思います。

子供の教育だけではなく、それに携わる人たちも我々も、ともに学んで、ともに教育される側ですよね。する側、される側。共学という観念も含んでいると思いますので、いろんな意味で膨らませていけますね。

○三橋委員 郡山医師会の規模もそうですが、郡山市の教育の規模も、大都市みたいに大きくなり過ぎると良くないと思います。郡山はまとまっている本当にいいまちだと思うんです。私もここで生まれたので、大好きなまちです。

教育委員会事務局の御努力で、親子まつりや記憶力大会もどんどん盛況になってきて、子供も、保護者もしっかりと活動に参加されて、子供たちの顔を地域の人がみんな知っていて、知っていることによって、怖い事件から子供たちを守ることもできると思います。やはり勉強だけではなく、色々な面で子供たちが大人の影響を受けて育っていってくれるのが非常にありがたいことだと思っているので、今までの活動を充実させて、続けていただけることがありがたいと思っております。

○石川委員 僕も皆さんと同じ考えで、大きな道筋を決めるという意味でもすごくいい言葉が入っている文章であるし、広がっていけばいいかなと思っています。

現在、子供が3人、幼・小・中といますが、読ませてもらった感じでは、方向性としていい形かなと思います。

ただ、市内在住の知り合いの方とかで、親が精神的にまいっている人がいらっしゃるんです。親の精神状態が良くないと、子供にも悪影響が出る可能性もあるかなと思うので、そういう部分のケアも大切かなと思っています。

細かい部分は、これから決まっていくでしょうし、時代によっても変わっていくと思うんです。そういうことも含めて、郡山市がより良いまちになるためには、子供の充実だけでなく、親もしっかりしなければいけません。しっかりと見据えて一步一步、1つずつよくなっていければと思っています。

○三橋委員 子育て支援は大事です。御老人の生活も大切ですが、未来を担うのは子供たちですから。お互いの助け合いは必要ですね。

○石川委員 僕の知り合いの話ですが、お年寄りと子供をどう結びつけるかを一生懸命考えて実践しているところがあります。お年寄りも、孫とかひ孫ぐらいの年齢の子供に会うと、すごく喜ぶらしいです。

お年寄りも毎日生きがいができ、だんだん元気になっていくし、子供たちも僕達みたいな親世代からでは学べない昔ながらのことを学べるという意味で、すごく助かっていると知人が言っていたので、そういう部分も広がっていけばいいかなと思っています。

○三橋委員 白百合会という団体があって、ひとり親の人たちを呼んでお餅つき大会を開いたりしてくださっているのですが、一生懸命してくださっている奉仕団体に対して、現代のお母さんの考え方も少し変わってきているところがあるという感想をお持ちでした。一概に押しつけるのはいけないかもしれませんが、家庭に対していろいろなこ

とを配信してあげるのも大事かもしれません。

○石川委員 子供が行きたいと言えば、親も行かざるを得ない。行ってみたら、実は思っていたのと違って、いいことだとわかるような形になれば良いと思うんです。

○上田市長 介護の現場でよく言われるのは、子供は最高の介護ヘルパーだという発想です。何も技術的なことはなくても、そこにいるだけでお年寄り元気になったり、勇気づけられたりする。そういう多世代交流をもっとすべきであると言われていています。

ラジオ体操でも、小さな子供は前に出てくるんですが、小学校の5、6年生になったら恥ずかしがってるのか前には出てこない。2才から5才ぐらいの子供は元気に走り回って、お年寄りのアイドルです。こういう多世代交流は、すごく必要なことだと思います。

○事務局 ご意見いただいた多世代交流のことに关しましては、総合計画への反映も検討してまいりたいと考えております。

ほかに御意見等ございませんでしょうか。

○上田市長 先ほど話に出ていた、白百合会の餅つき大会へこの前行きましたが、若いボランティアも参加しているんです。20代、30代の若い人達が、子供たちの応援に来てくれている。でも、餅つきのやり方がわからない。子供たちは、騒いでぶつかってけがもする。でも、そういうのが大事かなと。みんな生き生きと交流しているし、楽しそうでした。

餅つきは、おばあちゃんの知恵がなければできなくなっており、30代の人たちに、そういう伝統がよく伝わっていないと言えるのかもしれない。

○藤本委員長 そういった世代を超えた応援をすることに関して、奈良県の風土は全国的に見ても小学校、中学校ともにいいと思います。県や教育委員会のホームページを見ていると、奈良県は応援する方が意外と大勢おられると思います。

各地域の小学校とか幼稚園でも、地域の方たちが参加してくださっている。だから、教育に対する応援というか、興味や関心を持っていただいている方が多いという風土はあるように思うんです。

○福本委員 ちなみに使用する写真ですが、金魚すくい大会の写真が見受けられないのは寂しいような気がします。子供が一生懸命になっているような写真があれば、いいですね。

○事務局 わかりました。検討させていただきます。

○福本委員 大綱は確かにシンプルなほうが絶対いいし、わかりやすいですね。

○事務局 それでは、教育大綱については以上でよろしいでしょうか。

ただいま市長より説明申し上げました、教育大綱(案)を大和郡山市教育大綱とさせていただきますと思います。

本日、各委員の皆様からいただきました御意見につきましては、現在策定いたしております第4次総合計画の各施策の中で踏まえてまいりたいと考えております。

教育大綱につきましては、この後、デザイン等の編集を行い、印刷をして、後日、各委員の皆様にお配りしたいと思います。

なお、市議会、小・中学校、幼稚園にも配布する予定でございます。

最後になりますが、これからの予定をお知らせいたします。

本会議の今後の開催予定でございます。来年度6月議会の後と今の時期ぐらいの年2回程度、必要に応じての開催を予定いたしております。具体的な日程につきましては、改めて事務局から御連絡いたします。

以上をもちまして、本日の会議事項は全て終了いたしました。これにて閉会させていただきます。どうもありがとうございました。